

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

( 秋期・一般選抜 ) 問題

専門科目Ⅰ 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

|   |  |
|---|--|
| 成 |  |
| 績 |  |

2022年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(秋期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ ( **日本思想史** 専攻分野)

一、今後研究しようとするテーマの思想史学上の研究意義について論じなさい (20行程度)。

二、次の①～④について簡潔に説明しなさい (各3～4行程度)。

- ① 遁世      ② 草莽の国学      ③ 近代の超克      ④ 吉野作造

三、次の史料をわかりやすい現代語に直しなさい (40行程度)。

世の人常に云へるは、むかし神代はかくありし、とやありけん杯、熟と語れども、誰見得し人もなければ、其の理りさだかならず。老夫一とせ、越の中川村にありて元朝に逢ひし時、在郷なれば元日の曉六時迄も、皆済算用てふにて物さわがしくこそありしが、五時にも至れば物音もせず、雑煮とて餅を出せるに中々鹿末なる品々なり。夫より机によりかゝり、つくぐ考へ見るに、あたりは皆々薬の屋軒をならべ、寝てゐる者も髪かたちいとかしく、何一つ浮世めきたる様もなし。予身の上を省れば、腹はふくれ衣は暖かにして、他念露も起らず。昔の神代のさまは是ならんと思ひ付きて、元朝や神代の事の思はるゝと云ふ發句も實にと獨笑したり。是に由りて觀念するに、治國經濟の方々、心を勞し思ひを苦しめ政事をなし玉ふに、此の神代の風化に至らざる事謂れなきにしもあらず。人間の態は、人多ければ物多く、物多ければ花美も増長し易し。故に薬ぶきも

板屋に替り、かはらけも蒔繪の椀となる。是をかたへに見せおきて、これは大人富貴の道具なれば、小人貧賤は持つまじきと、其の節々を立て、教へ導くとも、かの小人共は女童べも同じ心にて、ほしくおもふの念絶えず。春のはじめとなれどもうつしき衣服なし、むまき肴なしと、食欲の情をさしはさむ故に、春としもなき人心になり、かの神代に等しからず。在郷にては、むかしの在郷とは違ひけれども、又町市よりは少し其の形のこれり。人はしらず、老夫は在郷にて神代の人になりたり。政事の模様、在郷は在郷の神代、町市は町市の神代にせん事、またあるまじきにもあらざるべし。此の事深き心あるかたぐに尋問ふべし。

(上田作之丞『老の路種』による)

受験記号番号

$$\frac{3}{6}$$

受験記号番号

4/6

受験記号番号

5/6

受験記号番号

$$\frac{b}{b}$$